

観光事業の整備について

制野敬一

〔質問〕今春、統合により白石高等学校が新たな場所ですタートした。

跡地に広い空きスペースが発生した場合、白石城周辺もさらに充実したものに整備できる環境になると思われる。観光産業の発展は、白石にとっても大変大きな経済効果をもたらし、継続した観光事業

を推し進めるのには、ぜひ検討しなければならぬ課題だと思われるが、市長の見解を伺いたい。

【その他の質問】
農業振興整備計画策定について

〔答弁〕【市長】跡地について、県は、学校施設の整備の一環として、新校舎前の益岡公園駐車場及びテニスコート敷地に武道館等を整備する計画で、土地との交換について、現在協議をしている。教育委員会の管理課を中心に関係各課によって検討委員会を設置し、都市公園法や都市計画法の問題、また、施設の整備に係る文化財の発掘調査の問題等について、現在検討しているところである。

旧白石高校跡地の今後の利活用については、隣接する白石城と一体的に考えるべきであると思っている。現在5次総合計画を策定中であり、基本構想の中で、「豊かな感性と人間性をはぐくみ、伝統文化を継承するまち」を掲げ、歴史のまちづくり、文化のまちづくりを計画しているところである。整備計画については、都市公園の機能を確保し、歴史のまちづくりに沿った利活用を考えていきたい。

既存企業への事業発注のあり方について

沼倉啓介

〔質問〕企業誘致が思うように進展しない中で、今必要とされる物事は現在本市で事業展開している企業に対してのサポートとそれらの企業の本市に対する貢献に対する評価である。

それらは事業の発注等の際しても何らかのポイントとなつての配慮が必要と思われ

る。
昨今、それらの物事において首を傾けたくなる姿が見られる。
本市で事業展開している企業に対する本市としての姿勢を問う。

〔答弁〕【市長】既存企業に対するサポートについては、企業立地推進課の職員が市内の企業を訪問するなど、情報交換を行いながら、企業からの要望等に対しては、ワンストップサービスによる迅速な対応をとっている。
また、2月議会において、投資環境が依然として厳しい製造関連企業への経済的な支援策として、規模拡大を考えている市内企業も利用しやすい制度となるよう、対象要件

の緩和や奨励金額の改定など、企業立地優遇制度の見直しを行った。
市内企業への建設工事発注の考え方については、従来から発注額の低い工事などは、特殊な工事を除き市内業者に発注している。できる範囲で工事は細分化をしたり、多くの市内企業が参加できるように配慮をしている。
市への貢献に対する評価については、建設工事の場合、一般競争入札の際に、価格以

外の技術的な要素、地域に対する貢献度合い等を評価の対象に加えた総合評価落札方式を採用し、市内企業に配慮をしている。
さらに、消耗品、燃料の単価契約についても、市内企業による入札によって業者を決定している。
このように、公正、公平性を保ちながらも、できる限り市内企業に配慮するよう努めている。



取り壊し予定の旧白石高等学校